

## アマランサス属植物と近縁種の性状

## 第2報

日置良正・中村泰郎・徳永 博 (農業生物資源研究所植物分類評価研究チーム)

Yoshimasa HIOKI, Tairo NAKAMURA and Hiroshi TOKUNAGA :  
Characteristics of *Amaranthus* and Related Species. 2.

IBPGR (国際植物遺伝資源理事会) による植物遺伝資源の探索・収集がネパールで実施されたが、1984年東部地域で収集のアマランサス属植物並びにその近縁種などの83系統<sup>1)</sup>に引き続き、1985年西北部地域で収集のアマランサス129系統についても第1次増殖と1次特性調査を行ったので、その結果を報告する。種子は1986年3月、農業研究センター作物第一部資源作物研究室より供与を受けたものである。

## 1. 試験方法

1) 供試材料 供与されたアマランサス129系統を種皮色によってさらに分類し、138系統とした。

2) 供試圃場 当研究チーム祇園圃場 (宮崎市), 沖積層・砂壤土。

3) 施肥量 基肥としてN, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 各10kg, K<sub>2</sub>O 5kg そのほかに堆肥及び苦土石灰, それぞれ300kg/10aを全面に施与した後ロータリー耕耘を行った。

4) 播種 1986年4月25日, 畦間150cm, 株間20cmで1系統10ヶ所の点播法により直播きし, 後に1本仕立とした。

5) 調査 種の同定・特性調査は, Genetic Resources of Amaranths (Grubben, G. J. H. and D. H. Van Sloten 1981, IBPGR) に準拠して行った。

## 2. 結果及び考察

調査結果の概要は第1表と第1図に示した。供試系統はすべて1年生草本で4種に分類同定できた。種類別の主要な特性は次のとおりであった。

第1表 アマランサス属植物の特性調査結果

種別	系統数	葉長 cm	葉幅 cm	葉形	葉先	主茎花序	
						形	姿勢
<i>A. hypochondriacus</i> L.	100	18.0	8.4	皮針, 楕円形	尖頭, 鈍頭状	円錐	直立
<i>A. caudatus</i> L.	36	17.9	9.5	"	尖頭状	"	下垂
<i>A. dubius</i> Mart.	1	19.7	12.0	卵形	鈍頭状	穂状	直立
<i>A. blitum</i> L.	1	7.6	5.5	"	凹頭状	"	"

1) *Amaranthus hypochondriacus* L. 直立性。分枝数が多い。草丈は約200cm。葉形は皮針形または楕円形。葉先は尖頭状または鈍頭状。主茎花序の姿勢は直立で、形は円錐である。

2) *A. caudatus* L. 直立性。小分枝が多い。草丈は約

200cm。葉形は皮針形または楕円形。葉先は尖頭状。主茎花序は下垂で円錐形。

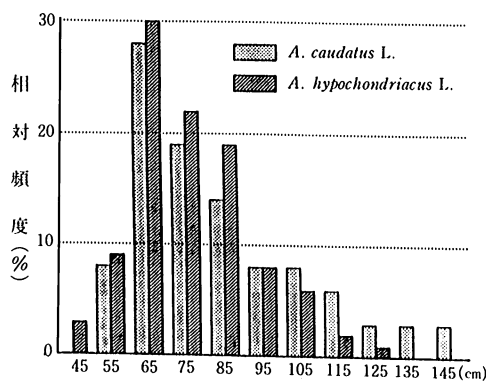
3) *A. dubius* Mart. 直立性。分枝数が多い。草丈は約200cm。葉形は卵形で大きい。葉先は鈍頭状で花序は細長く、粗で穂状である。

4) *A. blitum* L. 分枝型。分枝は斜傾。草丈は約80cm。葉形は卵形。葉先は凹頭状。花序は小さな穂状である。

なお、モチ・ウルチ性をみると *A. hypochondriacus* L. はモチで、*A. caudatus* L. はウルチであることが分かった。

次にアマランサスのうち、*A. blitum* L.以外の種では、一般に草丈が200cm内外と高いため、風雨による折損、倒伏抵抗性が弱い欠点がある。しかし、今回供試した4種のうち、系統数の多かった2種136系統の草丈についてみると、かなり大きい個体変異を示し (第1図)、倒伏に強い短茎性系統の選抜は比較的容易であるものと考えられる。

したがって、今後の特性評価によって有用性を明らかにし、穀実用としては脱粒性が低く、草丈の短い耐倒伏性の系統を、また、葉菜用としては葉が大きく品質の良いものなどを重点的に評価・選抜していくことが必要である。



第1図 系統による草丈の変異 (出穂時)

## 引用文献

1) 中村泰郎・日置良正・板倉 登・徳永 博:九州農業研究, 49, 81, 1987.